



資料No. 1

ジオサイト保護保全管理計画（案）



令和元年8月28日

佐渡ジオパーク推進協議会

目 次

1	計画策定の経緯と目的	2
2	佐渡ジオパークの概要	3
	(1) 佐渡ジオパークの特徴	
	(2) 計画の対象となるジオサイト	
3	ジオサイトの現状と保護について	12
	(1) ジオサイトの現状	
	(2) ジオサイトの保護	
4	保護保全の基本方針	17
	(1) ジオサイト（地質・地形）の保護保全	
	(2) 希少な動植物や岩石・化石及び自然環境の保護保全の保護意識の醸成	
	(3) 持続可能な活用	
5	ジオサイトの運営体制	18
	(1) 管理体制	
	(2) 連携体制	
6	ジオサイトの保存管理	20
	(1) 保存管理の方法	
	(2) 異状発生時の対応（1 次対応）	
	(3) 保存整備までの対応（2 次対応）	
	(4) 教育や学術調査における採取行為への対応	
7	ジオサイトの保護保全事業	24
	(1) 保存事業	
	(2) 活用事業	
別紙	岩石・化石採取計画申請書	26

1 計画策定の経緯と目的

佐渡は、国、県、市より文化財指定された史跡・名勝・天然記念物が所在する深い歴史と豊かな自然を有する島である。その中には、地形・岩石・化石など地質的に重要な箇所も含まれている。また、文化財指定は受けてはいないものの学術的且つ教育的価値の高い箇所も島内各地に認められる。このような貴重な自然に対する価値を佐渡市民が学び、それらを保護しながら地域づくりや観光に活かしていくことがジオパーク事業の目的である。従ってジオパーク活動を進めるにあたり、地質的に重要な事象（遺産）を将来に渡って保護することが大前提となる。他方、佐渡市が進める「世界文化遺産」「世界農業遺産」「ジオパーク」の3つの認定制度の関連性は、地質遺産が地域の文化や農業の発展に関わっており、佐渡金銀山遺跡を構成する史跡の一部や、豊かな生態系、それと共生する里山環境を維持してきた佐渡の農業と農文化は、佐渡ジオパークのジオストーリーを構築する重要な要素となっている。

佐渡ジオパークは平成 25 年に佐渡ジオパーク基本計画を策定し、ジオパーク活動を展開してきたが、平成 30 年 3 月末に計画期間満了となり、引き続き活動を推進していくにあたっての総合的な指針として、平成 31 年 4 月に「第2次佐渡ジオパーク基本計画」を策定した。計画策定にあっては、平成 29 年に実施された日本ジオパーク再認定審査において指摘された改善事項に関する対応について盛り込んだ。このうち「化石や鉱物などを含む地層の保護保全方針の決定」については、佐渡ジオパークとしてのサイトの保護保全管理計画を策定すると明記している。

以上の経緯から「地質遺産（以下「ジオサイト」という。）や動植物、人の営みの痕跡」を後世に継承し、佐渡の資産として普遍的に保護・保全がなされること（以下「保護保全」という。）、且つ教育・普及活動に対して有効活用ができる体制づくりを推進するため本計画を策定する。また、本計画の遂行にあたっては官民が一体となって保護保全に取り組むことを基本理念とする（図 1）。

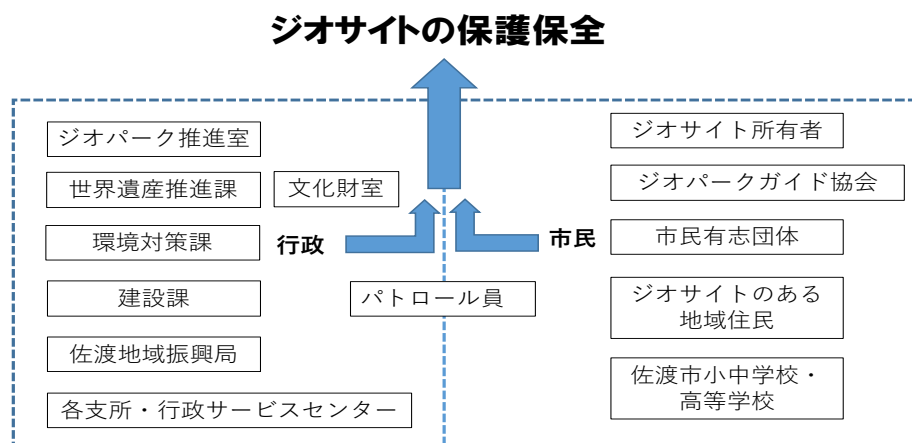


図 1 ジオサイトの保護保全に取り組む関係者、関係団体の概念図

2 佐渡ジオパークの概要

(1) 佐渡ジオパークの特徴

佐渡島は、反転テクトニクス（大地が水平に引き伸ばされるような動きの後、逆に押し縮められるような動きになるプレートの運動）により形成された島として、日本列島の成り立ちと共通した成因をもつ。佐渡の大地にはこうした造構運動の変遷を示す地形や地層が認められ、他のジオパークには見られない特徴である。その他、佐渡各地から産出する岩石や化石からは3億年にも及ぶ佐渡の形成過程や環境変動などを知ることができる。なお、佐渡では、山地・段丘・平野・海岸などの様々な地形が見られ、北緯38度線上に位置することや離島という地理的な条件とが相まって、多様な生物相を形成している。佐渡島を北限又は南限とする植物が認められること、低山であるにも関わらず亜高山帯の植物が生育していること、サドガエル・サドモグラなどの固有種が存在することは佐渡特有の環境が密接に関係している。また生物学的に北方系、南方系の動植物が共存する生物相を有することから日本の縮図とも言われている。このように自然科学分野における研究対象や学習教材が数多く残されていることが佐渡ジオパークの大きな特徴である。

(2) 計画の対象となるジオサイト(活用ジオサイト)

ジオサイトは現在88箇所が選定されている(図2～図6)。その中で27箇所(P.9 表1)が、活用ジオサイトとして本計画の運用対象となる。その他のジオサイトについては今後、諸条件を検討する中で活用ジオサイトへ更新していく。

活用ジオサイトとは、学術的に高い価値を有し、教育や観光に積極的に活用するサイトであり、安全に見学等が可能であることがその条件となる。そのため、駐車場やトイレ、導線の整備等も考慮しなければならない。ジオサイトの設定は、その作業指針として策定した「ジオサイト設定総合計画」に基づくものとする。

<凡例>

…佐渡弥彦米山国定公園

…天然記念物
及び
名勝 佐渡小木海岸

…小佐渡県立自然公園



エリア内のジオサイト 41箇所

● 活用ジオサイト 8箇所

● 上記以外のジオサイト 33箇所



図2 小木半島エリアのジオサイト

<凡例>

…佐渡弥彦米山国定公園

…名勝 海府海岸



エリア内のジオサイト 23箇所

● 活用ジオサイト 8箇所

● 上記以外のジオサイト 15箇所



図3 相川金銀山エリアのジオサイト

<凡例>

…佐渡弥彦米山国定公園

…小佐渡県立自然公園

エリア内のジオサイト 9箇所

内訳

● 活用ジオサイト 2箇所

● 上記以外のジオサイト 7箇所

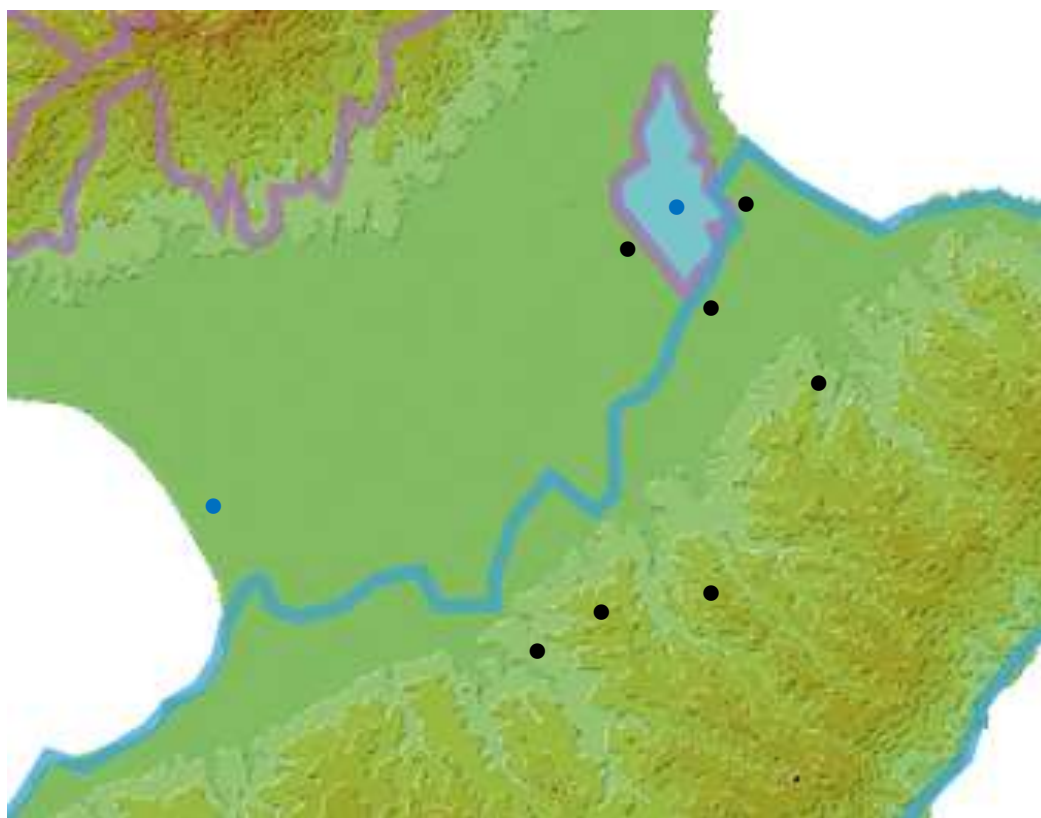


図4 国中平野・加茂湖エリアのジオサイト

<凡例>

…小佐渡県立自然公園

エリア内のジオサイト 13箇所
内訳

- 活用ジオサイト 7箇所
- 上記以外のジオサイト 6箇所

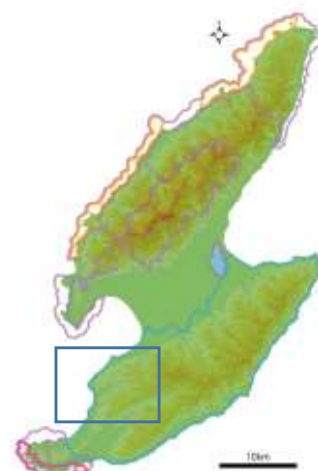


図5 西三川砂金山エリアのジオサイト

<凡例>

…佐渡弥彦米山国定公園

…名勝 海府海岸

エリア内のジオサイト 2箇所

● 活用ジオサイト 2箇所



図6 海府北部エリアのジオサイト

表1 活用ジオサイト一覧（令和元年８月現在）

エリア	NO	ジオサイト名
小木半島エリア	1	立体的な枕状溶岩
	2	元小木の隆起波食台
	3	琴浦洞窟
	4	岩屋山海食洞
	5	宿根木の隆起波食台
	6	沢崎の隆起波食台
	7	潜岩
	8	深浦海岸
相川金銀山エリア	9	片辺礫岩
	10	尖閣湾（尖閣湾の海食崖）
	11	吹上海岸の球顆流紋岩
	12	千畳敷の溶岩流
	13	青盤脈の断層
	14	道遊の割戸
	15	夫婦岩
	16	長手岬
国中平野・加茂湖 エリア	17	加茂湖
	18	八幡砂丘
西三川砂金山エリア	19	立岩（人面岩）
	20	大須鼻の活断層
	21	塩掛鼻の含有孔虫砂岩
	22	椿尾の石切場
	23	弁天崎の基底礫岩
	24	素浜海岸の褶曲した地層
	25	西三川の堆積砂金鉱床
海府北部エリア	26	二ツ亀
	27	大野亀

表2 ジオサイト（活用ジオサイト以外）一覧（令和元年8月現在）

エリア	N0	ジオサイト名
小木半島エリア	28	泥岩と指交する枕状溶岩
	29	素浜海岸のノジュール
	30	素浜海岸の硬質頁岩
	31	城山の火山灰露頭
	32	玄武岩と泥岩の接点
	33	玄武岩マグマの小型水蒸気爆発
	34	岩床下の泥岩の乱堆積
	35	岩床中の炭酸塩岩脈
	36	元小木の水中火砕岩
	37	琴浦の小さな噴火口
	38	琴浦の水中火砕岩
	39	新谷岬の隆起波食台
	40	新谷岬石切場
	41	宿根木の水中火砕岩
	42	宿根木のノッチ
	43	花崗岩質のゼノリス
	44	宿根木のポットホール
	45	犬神平の隆起波食台
	46	犬岩
	47	南仙峡
	48	犬神平の透輝石
	49	たけのこ岩（枕状溶岩）
	50	沢崎の岩脈
	51	オリビンサンドの漂着地
	52	沢崎鼻の集塊岩
	53	神子岩（ピクライト質玄武岩）
	54	泥岩とピクライト質玄武岩との境界
	55	泥岩と枕状溶岩との境界
	56	三ツ屋の隆起波食台
	57	板状溶岩

小木半島エリア	58	江積の隆起波食台
	59	木流の柱状節理
	60	藻浦崎の流紋岩
相川金銀山エリア	61	片辺礫岩の境界
	62	平根崎の傾動地形
	63	平根崎の化石群
	64	平根崎の波蝕甌穴群
	65	戸地の火砕流堆積物
	66	戸地の溶結凝灰岩
	67	尖閣湾の流紋岩
	68	達者の含金石英脈
	69	青盤脈露頭付近の石英脈
	70	パレオパラドキシア臼齒化石産地
沢根・中山峠エリア	71	夫婦岩の海食洞
	72	相川層の頁岩
	73	長手崎の火山円礫岩
	74	長手岬の火砕流堆積物
国中平野・加茂湖エリア	75	潟端火山灰層
	76	潟端層の模式地
	77	住吉野城の両津新期扇状地堆積物
	78	下久知の硫酸バリウム鉱山跡
	79	新穂銀山
	80	国見平野球場からの国中地形
	81	城ヶ平（佐渡一國義民堂）からの景観
西三川砂金山エリア	82	下戸層と鶴子層の境界
	83	素浜海岸の砂丘地形
	84	瓜生崎の化石露頭
	85	河ヶ瀬崎の不整合露頭
	86	河ヶ瀬崎の化石露頭
	87	傾斜する鶴子層
	88	碑(がためき)の貝化石

3 ジオサイトの現状と保護について

(1) ジオサイトの現状

ジオサイトとは、自然の地層、岩石、地形等であるため風化や侵食による損壊は免れないが、現在のジオサイトの状態は、特徴的な地質現象を確認できるものであり、現状を維持していくことが保護保全の基本となる。以下エリア別に活用ジオサイトの現状を述べる。

① 小木半島エリア

玄武岩質の水中火砕岩、枕状溶岩等の風化により、滅失の可能性が想定できる。また、急崖をなす露頭、巨大岩体等では節理に沿った崩落が考えられる。

② 相川金銀山エリア

火砕岩の風化と侵食による崩落が想定できる。また、海食崖では、節理とうに沿った崩落が考えられる。

③ 国中平野・加茂湖エリア

砂丘地域では、植生による露頭の滅失が想定できる。

④ 西三川砂金山エリア

火山岩溶岩もしくは火砕岩の節理に伴う崩落が想定できる。また、植生による露頭の滅失も考えられる。

⑤ 海府北部エリア

ドレライト岩体の風化による崩落が想定できる。

(2) ジオサイトの保護

これまで行われてきたジオサイトの保護保全に関わる法令による保護の状況並びに保護活動については次のとおりである。

① 法的規制による保護

佐渡ジオパークにおけるジオサイトの保護保全活動に関わる法律としては、主に「自然公園法」「文化財保護法」「景観法」がある。以下に各法律の概要と、関係するジオサイトを記述する。

i 自然公園法・新潟県立自然公園条例により保護されているジオサイト

自然公園法は、優れた自然の風景地を保護し、その利用の増進を図ることにより国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的として定められた法律である。

法令の規定に基づく開発規制エリア(国定公園、県立自然公園指定区域内)は下記ア及びイの通りであり、自然公園法第20条第3項、同法第33条第1項、新潟県立自然公園条例第14条第1項の規定により、国定公園、県立自然公園における現状変更に対しては、優れた自然景観を保護するため、建物の建築等の開発行為が規制されている。開発行為などを行う場合は、県知

事又は市町村長への許可申請又は届出の手続きが必要とされている。該当地域に関しては、法規制が適用されるため露頭の破壊行為や岩石、鉱物等の無断採取を防止している。

ア 佐渡弥彦米山国定公園内に位置するジオサイト

○小木半島エリア

- ・ 立体的な枕状溶岩
- ・ 元小木の隆起波食台
- ・ 琴浦洞窟
- ・ 岩屋山海食洞
- ・ 宿根木の隆起波食台
- ・ 沢崎の隆起波食台
- ・ 潜岩
- ・ 深浦海岸

○相川金銀山エリア

- ・ 尖閣湾の海食崖
- ・ 吹上海岸の球顆流紋岩
- ・ 千畳敷の溶岩流
- ・ 尖閣湾（尖閣湾の海蝕崖）
- ・ 青盤脈の断層
- ・ 道遊の割戸
- ・ 夫婦岩
- ・ 長手岬

○海府北部エリア

- ・ ニツ亀
- ・ 大野亀

○国中平野 加茂湖エリア

- ・ 加茂湖

イ 小佐渡県立自然公園内に位置するジオサイト

○小木半島を除く小佐渡丘陵全域

- ・ 立岩（人面岩）
- ・ 大須鼻の活断層
- ・ 塩掛鼻の含有孔虫砂岩
- ・ 椿尾の石切場
- ・ 弁天崎の基底礫岩
- ・ 素浜海岸の褶曲した地層
- ・ 西三川の堆積砂金鉱床

ii 文化財保護法、新潟県文化財保護条例、佐渡市文化財保護条例により保護されているジオサイト

文化財保護法は、長い歴史の中で生まれ、守り伝えられてきた貴重な財産である文化財の保存・活用、国民の文化向上を目的として定められた法律である。文化財保護法に規定される「文化財」は、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群に分類されている。これらのうち、その所在地が、記念物における史跡及び名勝又は天然記念物、文化的景観の範囲と重複するジオサイトがある。

同法第 125 条において「史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存の影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。」、同法第 139 条において「重要文化的景観に関

しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする日の三十日前までに、文部科学省令で定めるところにより、文化庁長官にその旨を届け出なければならない」と明記され、人為的な破損行為から保護されている。

ア 国指定史跡と重複するジオサイト

○佐渡金銀山遺跡 ※（ ）内は史跡内の地区名

- ・青盤脈の断層（相川金銀山跡）
- ・道遊の割戸（道遊の割戸）
- ・片辺礫岩（片辺・鹿野浦海岸石切場跡）
- ・吹上海岸の球顆流紋岩（吹上海岸石切場跡）
- ・西三川の堆積砂金鉱床（西三川砂金山跡）

イ 国指定の天然記念物及び名勝と重複するジオサイト

○佐渡小木海岸

- ・立体的な枕状溶岩
- ・元小木の隆起波食台
- ・琴浦洞窟
- ・岩屋山海食洞
- ・宿根木の隆起波食台
- ・沢崎の隆起波食台
- ・潜岩
- ・深浦海岸

ウ 国指定名勝と重複するジオサイト

○佐渡海府海岸

- ・片辺礫岩
- ・尖閣湾（尖閣湾の海食崖）
- ・吹上海岸の球顆流紋岩
- ・千畳敷の溶岩流
- ・尖閣湾の海食崖

エ 国選定重要文化的景観と重複するジオサイト

○佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観

- ・西三川の堆積砂金鉱床

○佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観

- ・青盤脈の断層
- ・道遊の割戸
- ・千畳敷の溶岩流
- ・吹上海岸の球顆流紋岩

オ 新潟県指定史跡と重複するジオサイト

○岩屋山石窟

- ・岩屋山海食洞

カ 佐渡市指定史跡と重複するジオサイト

○八幡砂垣

- ・八幡砂丘

iii 景観法、佐渡市景観条例、佐渡市屋外広告物条例に基づく法的保護を受けているジオサイト

景観法は、都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的として定められた法律である。

佐渡市では全域が景観計画区域に指定されており、全てのジオサイトが佐渡市景観条例に規定される景観計画区域と重複する。

ア 特別区域

○佐渡金銀山景観保全区域

- ・青盤脈の断層
- ・道遊の割戸
- ・吹上海岸の球顆流紋岩
- ・片辺礫岩

○宿根木の歴史景観区域

- ・宿根木の隆起波食台

○佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観区域

- ・西三川の堆積砂金鉱床

イ 漁村と海岸区域

- ・立体的な枕状溶岩
- ・元小木の隆起波食台
- ・琴浦洞窟
- ・岩屋山海食洞
- ・沢崎の隆起波食台
- ・潜岩
- ・深浦海岸
- ・尖閣湾の海食崖
- ・千畳敷の溶岩流
- ・尖閣湾（尖閣湾の海蝕崖）
- ・夫婦岩
- ・長手岬
- ・二ツ亀
- ・大野亀
- ・立岩（人面岩）
- ・大須鼻の活断層
- ・塩掛鼻の含有孔虫砂岩
- ・椿尾の石切場
- ・弁天崎の基底礫岩
- ・素浜海岸の褶曲した地層
- ・八幡砂丘

ウ 農村と平野区域

- ・加茂湖

② 各種保存計画に基づく保護

様々な指定文化財に対し、佐渡市が策定した保存計画は以下のとおりである。国指定史跡又は天然記念物及び名勝、国選定文化的景観については、これらの計画に基づき、適切に保存管理をされている。

- i 佐渡西三川の砂金由来の農山村景観保存計画（平成 23 年 3 月策定）
- ii 史跡佐渡金銀山遺跡保存管理計画 第Ⅰ期（平成 24 年 3 月策定）
- iii 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観保存計画（平成 27 年 3 月策定）
- iv 史跡佐渡金銀山遺跡保存管理計画 第Ⅱ期（平成 28 年 3 月策定）
- v 名勝佐渡海府海岸・天然記念物及び名勝佐渡小木海岸保存活用計画（平成 28 年 3 月策定）
- vi 重要文化財旧佐渡鉱山採鉱施設保存活用計画（平成 28 年 3 月策定）

③ ジオパークガイド協会による保護保全活動

佐渡ジオパーク推進協議会の構成団体であるジオパークガイド協会の会員を中心に、年 2 回程度ジオサイト周辺の草刈りやゴミ拾い等を実施している。

作業するジオサイトの選定方法については、ジオパークガイドが案内を行った際、ジオサイトの現況を確認し、草刈等の作業が必要な場合には、推進協議会事務局がガイド協会会員に活動日時を含めた情報を提供し、自主的に参加する形式で進めている。

④ 市民団体による保護保全活動

各地域において自主的に保護保全活動に取り組んでいる団体がある。例えば「沢根の貝立層（沢根・中山峠エリア）」では、地元有志で構成する「貝立層をよみがえらせる会」が中心となり、遊歩道や観察露頭の整備を行っている（年 3 回）。本ジオサイトは佐渡市指定の天然記念物であるが、地滑りとヤダケの繁茂により露頭観察が困難な状況であった。その後、会員の尽力により現在は小中学校の野外観察ができる学習の場として大いに活用されている。

⑤ 地域住民による保護保全活動

文化財指定を受けているサイトの整備は、所有者や管理している地域（管理者）が実施している事例も多い。その例として新穂銀山の歩道整備や小規模な斜面崩壊等における土砂、倒木の撤去は山の所有者である新穂北方・新穂大野集落の住民が年 2 回実施している。その際、佐渡市職員も一緒に活動し、連携を図っている。

⑥ 行政による保護保全活動

活用ジオサイトと重複する佐渡金銀山遺跡については、世界遺産推進課がボランティア団体及び史跡の管理者であるゴールデン佐渡に委託し、草刈り等の活動を実施している。また、ジオサイトがある海岸のゴミ拾いなどは、各支所、行政サービスセンターが中心となり、年 1 回のゴミの日を設定する中で、地域住民と共に清掃活動を行っている。

4 保護保全の基本方針

佐渡ジオパークのジオサイトを後世に継承し、安全に見学できるための保護保全の基本方針を以下のように定める。

(1) ジオサイト（地質・地形）の保護保全

地球活動の証拠であるジオサイトの現状を維持したまま未来に伝え、過去の地殻変動や生物の変遷を誰もが実感できる状態に保つことを**基本**方針とする。そのためには地形改変を伴う現状変更や景観を阻害する開発等の行為を規制し、自然の風化や侵食に対しては、経年劣化の進行を遅らせるための対策を学識経験者と協議しながら、ジオサイトの価値を保存する手立てを講じていく。また、見学のためのルートの整備や危険箇所への立ち入りを制限するなどの安全確保にも迅速に対応する。

(2) 希少な動植物や岩石・化石及び自然環境の保護意識の醸成

佐渡島に認められる希少な地質・生物及び自然環境についての保護意識の醸成を図ることを基本方針とする。そのためには教育活動を充実させ、研究対象としての情報提供や学習教材としての活用を通してその重要性を気付かせるとともに、その滅失を防ぐための活動についても理解を深める。

(3) 持続可能な活用

ジオサイトや希少な動植物を後世に継承し、これらを適切に保護しながらジオサイトの価値を伝えていくためには、観光と連携した活用及び普及啓発活動が続けていく必要がある。ジオサイトの活用が地元の人的交流を促し、郷土愛の醸成につながれば、自ずと保護保全の活動が行われ、ジオサイトが未来に向けて残すべき地域の財産として認識される。その手立てとしてジオパーク推進室職員による説明会や地域の公民館活動などへの積極的な参加を通して住民意識の変化を目指す。

5 ジオサイトの運営体制

佐渡ジオパーク推進協議会が実施するジオサイトの管理とは、各ジオサイトの現況確認を実施し、異状が確認できた際には、関係機関と情報を共有しながら各種法律や既刊の保存計画に基づいて対応を進めていくことである。また、ジオサイトの保存整備に関しては所有者や関係機関、地域住民や有志団体と連携しながら価値の減失を防ぐ活動を随時実施していく。

(1) 管理体制

ジオサイトの管理に際しては、ジオパーク推進室、世界遺産推進課、環境対策課、建設課、佐渡地域振興局、各支所・行政サービスセンター間での連絡調整を基に、所有者及び管理者、関係機関への情報発信、指示、報告の流れで対応する（図6）。

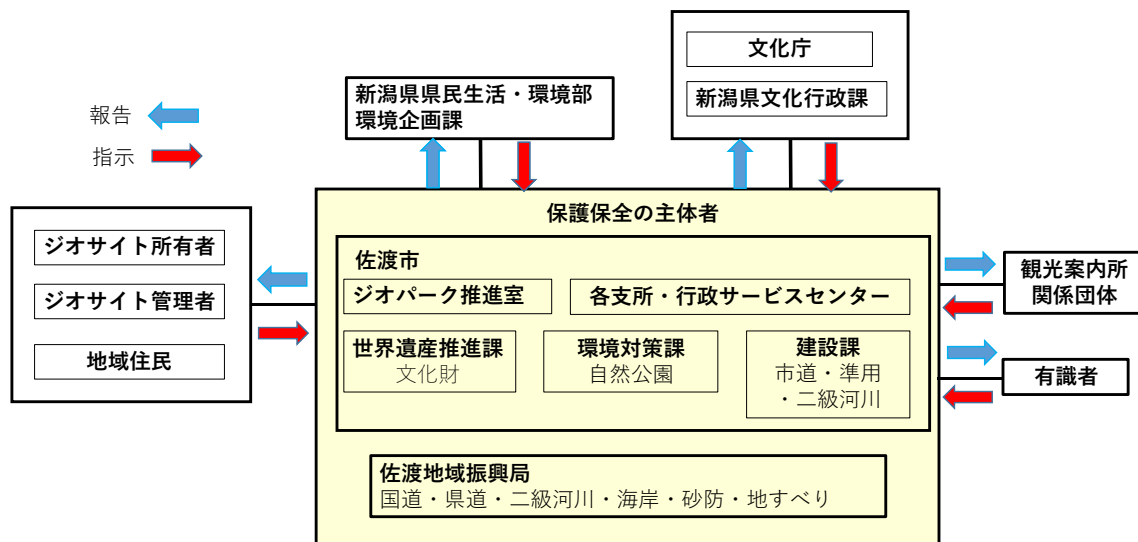


図6 保護保全の主体者と関連組織

(2) 連携体制

自然現象による損壊や侵食が進行しているジオサイトについては、保護保全に向けた対策を講じる。そのためのモニタリング調査をジオパーク推進室が実施し、保護保全の手法については学識経験者、ジオパーク推進室、世界遺産推進課、環境対策課、建設課、佐渡地域振興局で適切な方法を検討する。その結果を基に各担当と協議し予算化を図る。また、ジオパークとしての保全対策の1つとして経年劣化の様子を画像で残す記録保存を行う。

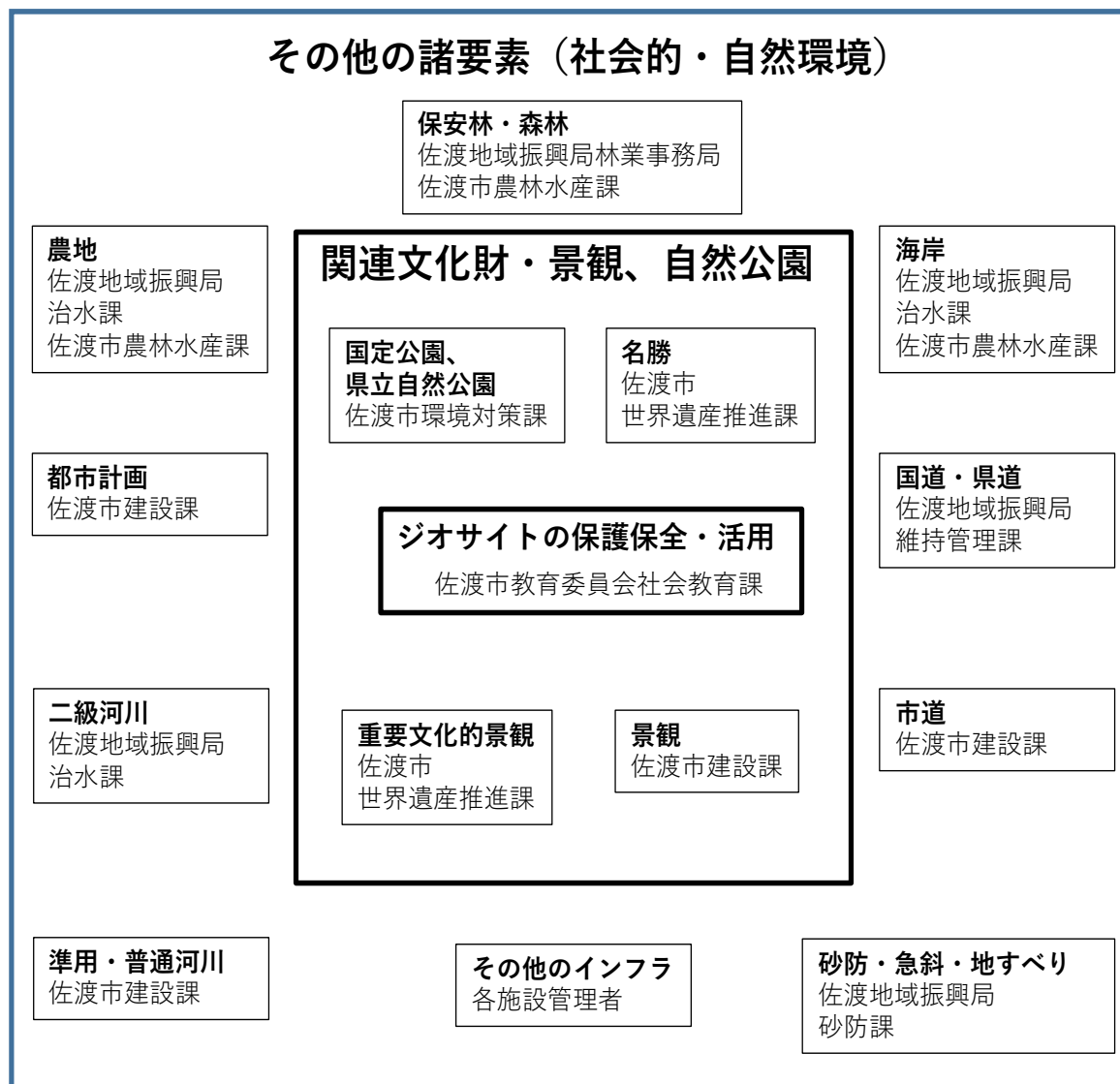


図7 ジオサイトの保護保全・活用を担う主たる組織

6 ジオサイトの保存管理

(1) 保存管理の方法

① 現況確認の方法

- ア ジオパーク推進室職員もしくはジオパークガイドによる点検
- イ 地域団体（有志団体）による点検
- ウ 地域住民、来訪者からの情報提供
- エ 佐渡市自然保護巡視員（市環境対策課）が実施したパトロール結果の情報共有

② 点検方法及び実施回数

各ジオサイトのカルテ（台帳）をもとに点検表を作成し、それぞれの項目に対して目視で異状の有無を確認する。点検内容は、現状変更や景観を阻害する行為等のチェック、経年劣化や自然災害による崩落や毀損の有無、人為的な鉱物・化石等の無断採取行為の有無などについて調査する。パトロールの実施については、ジオパーク推進室による点検を月 1 回とするが、佐渡市自然保護巡視員、地域団体、ジオパークガイドについてはツアーや整備活動の際に随時点検するものとする。なお、パトロールにあたってはジオパーク推進室の専門員とジオパークガイドとで綿密な打ち合わせを行ったうえで実施する。なお、佐渡市自然保護巡視員に関しては環境対策課と連携し、ジオサイト点検に関する合同研修会を開催する。

③ 情報の共有

ジオパーク推進室職員、ジオパークガイドが点検した結果及び地域振興局、世界遺産推進課、環境対策課、建設課等の各課が実施した点検結果等については、それぞれが情報を提供しあい、相互に共通理解ができるよう連絡体制を整える。

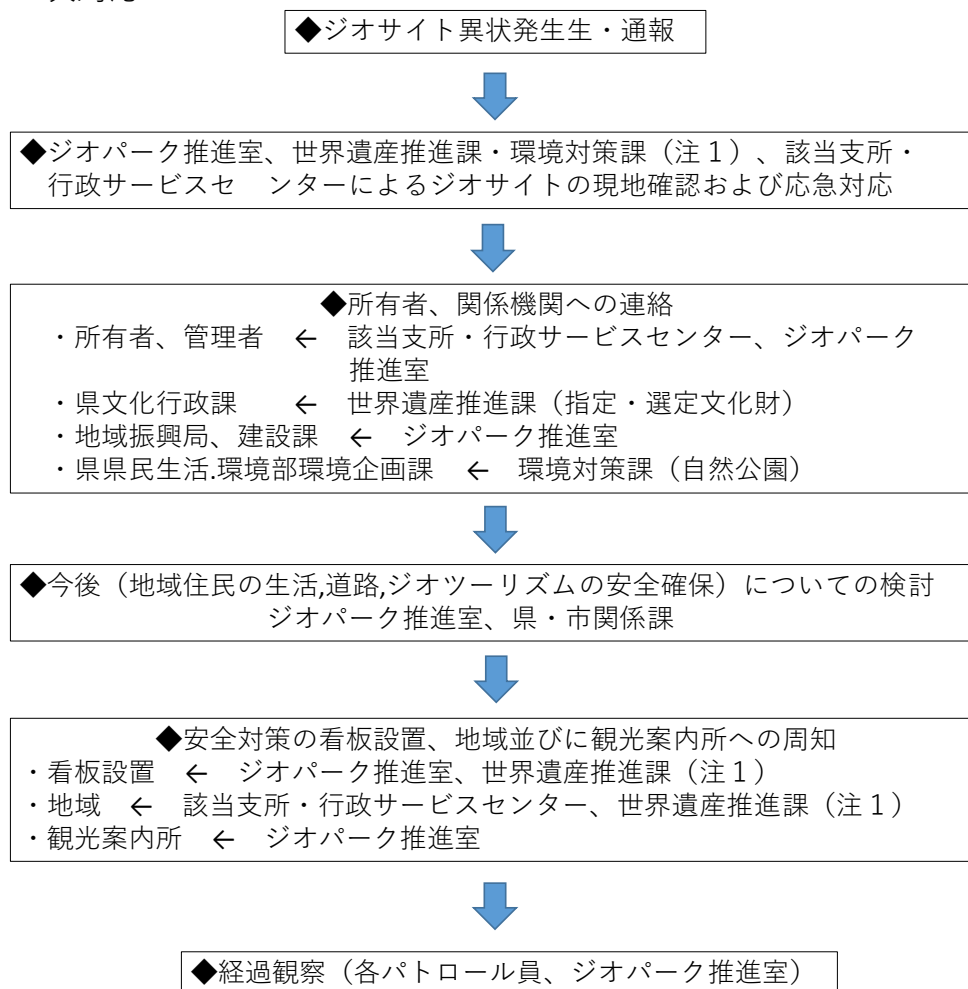
④ 保存整備

本計画で実施する保存整備とは、損壊もしくはその可能性があるジオサイトの価値を保存するための修復措置であり、県、市関係機関と連携し事業化を図る。その他、ジオパーク推進室が実施する手法として、経年劣化の様子を画像で残す記録保存を行う。

(2) 異状発生時の対応（1次対応）

ジオサイト及びその周辺で落石や崩落等の異状が確認された場合、地域住民や観光客等への人的な被害が生じないようにするためジオパーク推進室と各担当課が連携し対応する。具体的には崩落物の撤去や崩落の恐れがあるものへの処置、危険箇所への立ち入り制限や事故発生の周知などが主な内容になる。

1次対応



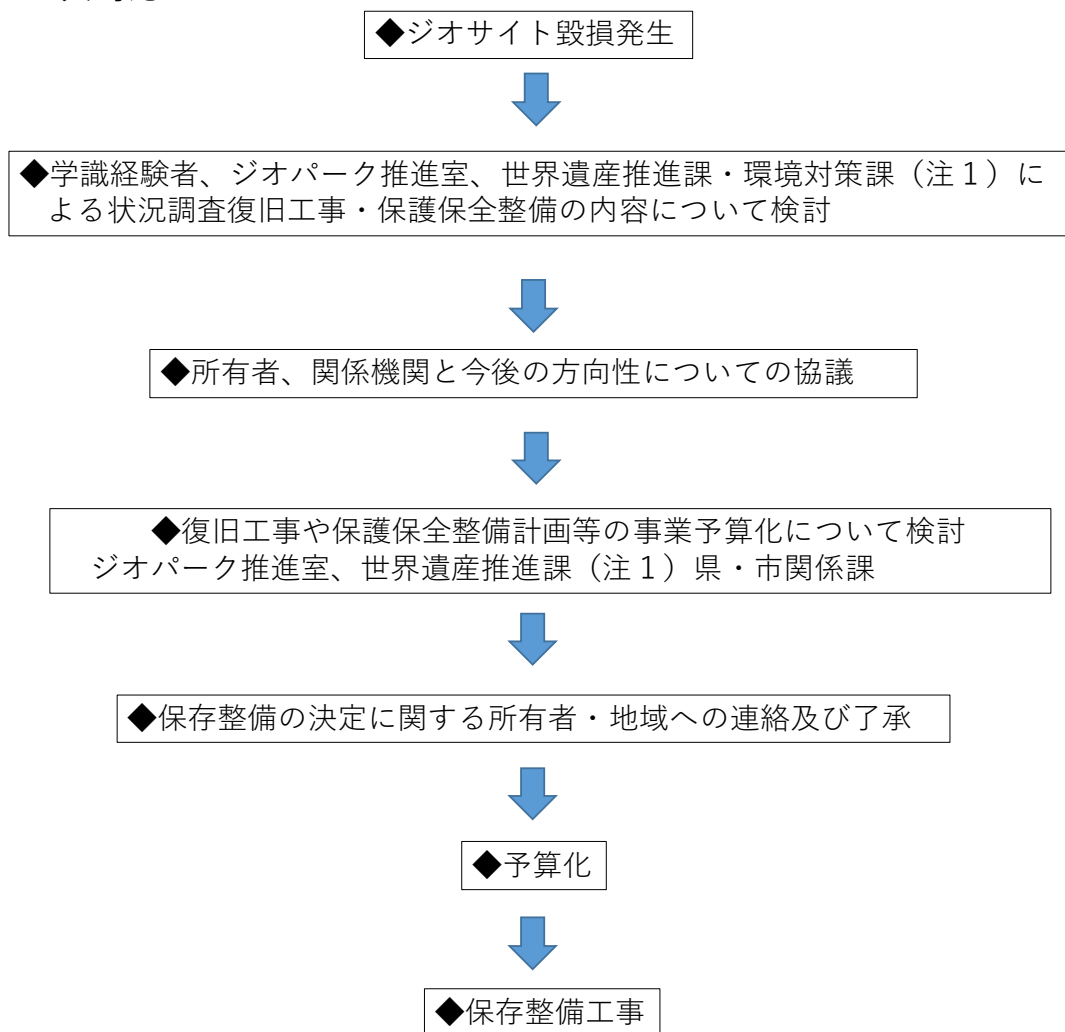
注1）ジオサイト所在地が史跡、名勝、天然記念物、重要文化的景観の範囲の場合は世界遺産推進課、自然公園に関しては環境対策課と連携する。

※ 文化財範囲内での毀損の場合、文化庁や県教育委員会、市教育委員会へ報告等の手続きが必要となる。

(3) 保存整備までの対応（2次対応）

崩落や侵食等の影響で学術的価値の消滅あるいは消滅の可能性が生じた時、又は安全な見学ができなくなった場合、ジオサイトが有する価値を最大限保存できる措置を学識経験者の意見を踏まえ、ジオパーク推進室及び各担当課と連携して行う。

2 次対応



注1) ジオサイト所在地が史跡、名勝、天然記念物、重要文化的景観の範囲の場合は世界遺産推進課、自然公園に関しては環境対策課と連携する。

※ 文化財範囲内での毀損の場合、文化庁や県教育委員会、市教育委員会へ報告等の手続きが必要となる。

（４）教育や学術調査における採取行為への対応

ジオサイトにおける岩石・鉱物・化石の採取は原則禁止とするが許可権者が認めた場合はこの限りではない。佐渡をフィールドとした研究や調査活動、研修会等において採取の要請があった場合は、採取依頼者に対して岩石・化石採取計画申請書（別紙）の提出を求め、世界遺産推進課、環境対策課に連絡し、現状変更等の手続きの可否を許可権者に確認してもらう。確認した結果については、その情報をジオパーク推進室から計画申請者に伝え、ジオパークを活用した研究活動の状況を把握するとともに、要請に応じて研究活動を支援していく。

上記内容に関して小中高等学校へはメールにて周知文及び計画書様式を配信する。また、一般及び研究者へは、ホームページやパンフレットを活用して周知に努める。

7 ジオサイトの保護保全事業

(1) 保存事業

ジオパーク推進協議会が主体となったジオサイトの整備（草刈り、ゴミ拾い等）やパトロールの他にも、様々な関係者による保護保全活動を実施する。ここでの関係者とはジオサイトを有する地域の住民、講座等を受講した市民有志、ジオパークガイド協会、学校等をいう。活動を展開するの当たっては、各地域（旧市町村単位）での説明会を実施し、ジオサイトが魅力ある場所であり、地域の活性化に貢献できる資産であることを説明し、保護保全に対する気運の高まりを図る。また、活動の周知については、ホームページ等あらゆる媒体を活用する。

(2) 活用事業

ジオサイトは、ツーリズムや学校での教育活動等に活用していくことが求められている。また、ジオサイトが有する様々な価値を利用し、学び、楽しむことがジオパークの目指す地域振興にもつながる。そこで、佐渡島内に点在するジオサイトの標柱や解説板、現地への誘導板等を設置・更新して受入体制の充実を図るとともに、見学マナーの遵守を呼びかけるサイン（看板）、パンフレット、ホームページ等をとおして、地層の損壊行為、鉱物や化石、植物等の無断採取や持ち帰りを規制する内容を周知する。

① 小・中・高等学校への対応

ジオサイトを活用した野外観察時には、ジオパーク推進室職員もしくはジオパークガイドが随行し、現地での解説とともに、サイトの希少性や有限性についても触れ、保護意識を高める。また、現地見学会実施に当たっては担当教諭と事前打合せを行い、指導者への普及啓発も図る。

② 一般来訪者への対応

ジオサイトへの見学は、ジオパークガイドの同伴が望ましいこと、及びその際には事前申込みが必要であることを案内パンフレットやホームページ等で周知し、ガイド依頼の内容から来訪者の把握に努める。見学を通し、サイトの地質的な価値や希少性を伝え、保護保全についての啓発を図る。

③ 地域住民への対応

ジオサイトのある地域又は周辺地域の住民に対してジオサイトの価値及び保全に関する説明会をジオパーク推進室職員、ジオパークガイド共同で行う。

④ 推進室主催の企画

市民講座、夏季休業中の親子体験教室、地域や団体からの要請に対応して実施する要請講座などを通して、普及啓発を行う。

⑤ 既存施設の活用

世界遺産推進課が管理する施設「きらりうむ佐渡」において、金鉱床の形成過程の説明、金鉱石の実物展示などを通し、ジオサイトと重複する史跡等を紹介し、その価値を理解してもらう。

別紙

岩石・化石採取計画申請書

年 月 日

住所

連絡先（電話）

氏 名

印

採集の目的	該当項目を選び、具体的な研究目的、活用方法等を記入してください。 ※標本等を採集し、販売をするなどの行為はできません。 標本作製 研究活動 その他（ ） _____ _____ _____ _____
採取活動予定日	年 月 日（ 曜日） ～ 年 月 日（ 曜日）
採集場所 （エリア・サイト名）	採集場所の地域名を記入してください。 詳細については地図の添付をお願いします。 採集地域名 _____
採 集 量	採集物のおおよその大きさ又は重量を記入してください。
採 集 者	

協議会事務局記載欄 ※ジオパークとして価値保存がされているかの判断を記入します

本計画申請書は、採集予定日 10 日前までにジオパーク推進室へ提出してください。